学会名	第23回日本医療情報学会看護学術大会
タイトル	ePathを用いた業務改善
所属	集中治療室 兼 医療情報調査分析室
氏名	髙山洋平
発表内容	当院で取り組んだePathを用いた業務改善について報告します。ePathでは、複数施設におけるパスデータ、DPC, SS-MIX2データなどを蓄積し診療プロセスやアウトカムの解析を進めてきました。今回は経皮的カテーテル心筋焼灼術パス（RFCAパス）のデータ解析と当院の看護の質の維持、向上の取り組みについて、①ePath導入前後の業務量の比較と②専門病棟と他病棟における医療の質の評価について検証しました。①ePath導入前後比較では、当院で使用していたRFCAパスとePathのRFCAパスとの違いは、OATユニットの導入、アウトカムの追加、評価回数を4回から２回への変更を行いました。その中で両群を比較し、患者背景および入院日数において差は見られませんでしたが、看護師が行う業務に関して特にバイタルサイン測定において業務量の減少が見られました。②専門病棟と他病棟とでは、専門病棟と比べても入院期間、バリアンス件数、業務量に大きな差は見られず、専門病棟と同じように業務ができていたと評価されます。ePathを使用することでアウトカムや構造化された記録に統一したケアが提供でき、医療の質の維持ができたと思われます。 今回報告したePathの有用性として、データの２次利用ができることと医療の質の維持が確保できることが挙げられます。指標となるデータを比較、解析し可視化することで、看護師の業務量の測定や問題点に対して素早く把握することができ、PDCAサイクルを高速で回すことができると思われます。そのため、ePathを用いた記録は医療・ケアの見直しの根拠となる医療記録となることを今後期待します。